

式 辞

厳しかった冬の寒さも、ようやく和らぎ、陽射しにも、そよぐ風にも、春の息吹を感じる、この佳き日に、令和3年度、山鹿市立鹿北中学校、「第50回、卒業証書授与式」を、挙行できますことを、厚く御礼申し上げます。

14名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

心から、お祝い申し上げます。

今、皆さんの晴れ晴れとした姿を前にすると、3年間の中学校生活が充実していたことが伝わってきます。

皆さんは、鹿北中学校に新しい風を吹き込むかのようなチャレンジを行い、新たな学校文化を創り上げてくれました。

「間違ってもいい、失敗してもいいからチャレンジし続ける鹿北中生」という目指す姿は、全国的に見ても画期的なものと言えます。

学校や社会では、正しいことが求められ、失敗を避ける傾向があります。

そんな中で、あえて間違ってもいい、失敗してもいい学校を創ろうしたところに、みなさんの強い意思を感じました。

コロナ禍という想定外の状況が続く、様々なことが中止となる中、皆さんは「何ができるのか」を常に問い続け、11月には、「あつまれ芸術の森 in 鹿北」を大成功させました。

この取組は、今まで経験したことのない「ゼロ」から「一」を生み出すものとなりました。

何もないところから、自分たちで企画を作り、さらには、みなさんの代表は、職員会議に参加し、先生方に堂々とプレゼンまでしました。

こんなことは今までの鹿北中ではなかったことです。当日は、500人以上の地域の皆様が、体育館に参集してくださり、鹿北中の新たな歴史を創ることができました。

芸術の森開催までの過程は、今までのように先生方が敷いたレールの上を進むのとは違い、自分たちで道を作りながら進まなければならないという不安と試行錯誤の連続であったと思います。

しかし、そんな試行錯誤の中から、現在、鹿北中の新たな校風となりつつある「自分たちから」という空気が生まれてきました。

この「自分たちから」という空気は、鹿北中をさらにレベルアップした学校へと進化させてくれました。

先生たちに言われる前に、自分たちで考え動く。こんなことをしたいと自分たちで企画を提案する。こんな学校は、そうそうあるものではありません。

まさに、みなさんの合い言葉、「Try & Error」～挑戦とステキな失敗～によって作り出されたものと言えます。

そんなみなさんも、2年生の頃、人と人との関係の煩わしさに悩み、なかまとは何か、自分らしさとは何かなど、自問自答しながら、みんなで話し合いを重ねた時期もありました。

出口が見えない重苦しい空気に包まれる中、こんなことで、自分たちがリーダーになれるのだろうかという不安な日々を過ごしてきました。

1・2年生のみなさん、今、皆さんの大きな壁となり、越えるべき目標となった卒業生14名も、悩み苦しんだ時期があったことを知ってください。

そんな苦しい時期を乗り越えてきたからこそ、今の姿があるのです。そんな時期があったからこそ、絆が深まっていったのです。

みなさんは、今日、卒業の日を迎えましたが、中学校3年間、何を見つめ、迷いながらも、自己の成長を通して何を獲得しようとしたのでしょうか。

皆さんの成長を見てきて、一つ 明確に言えることがあります。皆さんが見つめ、獲得しようとしたもの、それは「個性」であり、「自分らしさ」ではないかと考えます。

様々なチャレンジを通して、自分の考えを言えるようになり、時には、人と違って自己主張していくまでになりました。

そして、ついには、他者とは違う自分に気づき、少しずつ、違う自分を表現できるまでに成長を遂げました。

その過程こそが、みなさんの3年間の成長であったのではないのでしょうか。

社会の構造的変化から、みんながある程度同じことができることに意味がある時代から、「他人と違う」ことに意味や価値がある時代へと大きく変わってきました。

皆さんが生きる令和の時代とは、そのような「個性」の時代なのです。

卒業生のみなさん、どうか、みなさんが、気づき、獲得してきた、自分らしさ、個性を、次のステージでどのように生かしていくのか、そのことを、これからのさらなる学びや経験、そして、試行錯誤を通して、見つけていくことを期待します。

その意味では、中学校卒業というのは、本当の意味での、Try & Error～挑戦とステキな失敗の始まりと言えるのです。

どうか、そのことを忘れずに、自分らしくチャレンジする一人ひとりであることを願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございませう。心より、お祝い申し上げます。

中学校3年間、義務教育九年間を、修了されました。さぞや、感慨もひとしおだと、拝察いたします。

また、この3年間、本校に、お寄せくださった、ご理解とご協力に対して、心より、御礼申し上げます。

卒業生のみなさん。名残は尽きませんが、いよいよお別れです。

私たち鹿北中学校は、これからは、卒業生のみなさんの応援団として、中学校時代と同様に、「前進」の日々を送るみなさんの成長を見守り続けていきます。

「今の自分」は、もっと素晴らしい、「未来の自分」への、出発点です。

卒業生、一人一人の、前途に、幸多かれと祈り、式辞といたします。

令和四年、3月5日

山鹿市立 鹿北中学校長